

新年号

酪農とちぎ



第28回ロイヤル・ウィンターフェア

- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部本部長挨拶、女性会会長挨拶
- 5～6 ページ 東西南北
- 6～8 ページ 部課だより
- 9 ページ 理事会だより、市場成績
- 10～11 ページ ロイヤル・ウィンターフェア視察報告
- 11～12 ページ お知らせ



MILK JAPAN



新年の挨拶

酪農とちぎ農業協同組合

代表理事組合長 白井 勉



組合員ならびにご家族の皆様方におかれましては、輝かしい新春を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

旧年中は、弊組合の事業全般に對しまして、特段のご理解ご協力を賜りましたことに心から感謝とお礼を申し上げます。

とりわけ本年度は、生乳生産基盤を確保し年間を通じた生産抑制対策は継続しない方針で新たな生産体制に入りましたが、皆様方の安全・安心な良質乳生産のご尽力により、組合の生乳生産は堅調に

推移しており、敬意と感謝を申し上げる次第です。

さて、酪農経営をめぐる情勢は、2年続きでの乳価値上げにより一定の改善が図れた所ではありませんが、いまだに窮地を脱したとは言えない状況にあります。

昨年10月に全国の指定団体が生乳販売を受託する酪農家戸数が初めて1万戸を割ったとのニュースが報道され、「学校給食や食卓から牛乳が消える」、そんな事態が現実味を帯びてきたとの記事がありました。一連の報道で注目すべきは、月1回以上の牛乳等の購入者の9割以上が「日本の酪農家を応援したい」、「支援する行動をしたい」という、我々の力強い励みになる消費者の回答結果でした。このニュースに接した人々が、生乳生産現場の窮状に思いをはせ、

国産牛乳・乳製品の安定供給に對する危機感と問題意識を共有してくれたものと思います。

直近の生乳需給動向は、飲用向けの販売量が不振のなか、年末年始の余乳処理について予断を許さない状況にあります。しかしその先を見越しますと、酪農家の廃業に加え、後継牛頭数の減少により、飲用向けの生乳が足りても乳製品向けについて国内の需要を賄えなくなり、その一方では、酪農先進国の生乳生産停滞や東南アジア等の需要の高まりから、世界的に牛乳・乳製品需給はひっ迫傾向が続き、近い将来、本場に牛乳乳製品の不足を来す恐れがあると指摘されております。日本酪農の将来がより良い方向に進んでいけるように願うところです。

そのために、組合は生産者個々の自助努力で対応が困難な状況をふまえて、関東生乳販連と連携協調した対応を図り、牛乳・乳製品の消費拡大と酪農の理解醸成を推進し、生乳生産基盤の維持強化に努めます。さらには、酪農・乳業

一体となって、国や政府に對して酪農家への支援拡充を要請してまいります。

組合の出荷者戸数は、本年度において300戸を下回りましたが、生乳生産量は堅調に推移し、下半期に入って前年を上回る回復傾向のなか、各種事業が展開できいております。事業計画を達成し、それらの成果が還元できるような努めてまいります。なお、一昨年より協議を進めてきました役員定数等検討協議会の答申をふまえ、理事定数や選出方法を方向付けいたします。

結びに、第7期となる中期3カ年構想（令和6年度～8年度）の初年度として、「多様な酪農の成長を支え、持続可能な酪農を目指す」の基本方針のもと、役員一丸となって組合運営に取組んでまいりますので、今後ともご理解ご協力をお願いするとともに、ご家族皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。

令和7年 元旦



新年知事あいさつ

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとうございます。

日頃より本県農政の推進に御尽力いただき感謝申し上げます。

私は、昨年の知事選挙におきまして、多くの県民の皆様から御支持をいただき、引き続き県政運営を担うこととなりました。県内各地で県民の皆様の実声やふるさと「とちぎ」に対する熱い思いをお伺いし、改めて知事としての責任の重さを実感しているところであり、今後とも、「対話と

協調」、「県民中心」、「市町村重視」を徹底するとともに、「官民連携」を一層強化しながら、スピード感を持って、最大の成果が得られるよう、取り組んで参る決意であります。

さて、本県は、農業産出額が全国第9位の農業が盛んな県であり、中でも畜産は、農業産出額の約5割を占め、25年連続で生乳生産量本州第1位を誇るなど、重要な基幹産業となっております。

しかし、昨今の農業情勢の変化により、飼料等の価格高騰や牛乳の消費低迷が続き、酪農経営は大変厳しい状況に直面しております。

このような中、県では、「ミルクの国とちぎ」の持続的な発展を図るため、粗飼料の購入及び自給飼料の生産に対する支援や「栃木

県民牛乳消費拡大月間」の推進などに取り組んできたところです。引き続き、生産現場の状況を的確に把握しながら必要な対策を講じるとともに、情勢変化の影響を受けにくい経営への転換を図るため、耕畜連携の推進や飼料生産組織の育成による自給飼料の更なる増産、ICT機器を活用したスマート技術の導入による低コスト生産等を進めて参ります。

併せて、高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の家畜伝染病の発生が続いていることから、予防及びまん延防止に向けた総合的な家畜衛生対策を引き続き推進して参りますので、酪農家の皆様におかれましては、地域の畜産を守るため、飼養衛生管理基準の遵守徹底等をよろしくお願いいたします。

また、令和7年度が最終年度となる「県農業振興計画」とちぎ農業未来創生プラン」に基づき、「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」の実現に向け、各種施策を積極的に展開するとともに、これまでの成果・課題を精査し、

本県農業・農村の将来の姿を検討するなど次期プランの策定を進めて参ります。

知事6期目の新たな年を迎えるに当たり、私自身がオールとちぎの先頭に立ち、「誰もが未来に夢や希望を持てる栃木」、「豊かさや幸せを実感できる栃木」の実現に向けて、全身全霊で取り組んで参りますので、より一層の御理解と御支援をお願いいたします。

結びに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

令和7年 元旦



新年の挨拶

青年部本部長 荒井 芳幸



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。部員の皆様、組合役職員のご協力とご指導を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年6月の青年部総会において青年部本部長に選出され、新体制が発足しました。部員の皆様には本部事業へのご協力の程よろしくお願いたします。

青年部の活動におきましては、7月にソフトボール大会を部員数の減少や支部合併によりチーム数が少なくなりましたが、無事開催できました。参加人数等の都合によって中止せざるを得ない行事もありましたが、今年はいくつかの部員

が参加できるよう、役員会にて協議してまいります。また2月には、経営改善に活かせるような勉強会を予定していますので、部員の皆様にはご参加の程よろしくお願いたします。

さて、昨年の酪農情勢は、令和5年度に乳価が上がったものの、以前ロシアのウクライナ侵攻による穀物流通量減少や歴史的な円安が続き、さらには、地球温暖化の影響で、飼料作物の不作や、牛にかかるストレスなど酪農業にとっては厳しい状況であります。しかしながら、9月に牛乳消費拡大活動に参加させていただきましたが、牛乳を配布する際に、消費者からは大変に喜ばれ、牛乳を毎日飲んでいるといふ言葉を多数いただき、牛乳を生産することのやりがいを感じることができました。酪農は人類にとってなくてはならない産業だと思えます。厳しい状況ではありますが、部員の皆様が誰一人欠けることの無いように、今後も様々な活動を通して皆様のお役に立てるように役員一同考えていきます。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

新年の挨拶

女性会会長 海老原治美



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、女性会会員の皆様、組合役職員の皆様には日頃より女性会活動に対しまして格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は能登半島地震を始め、猛暑による異常気象など酪農にも影響のある年でした。酪農家戸数が年々減少し、女性会会員も減少する中、各支部活動が積極的に行われ、共に成長できる仲間がいることは大変心強く感じられます。

栃木県酪農青年女性会議では理

解醸成活動として県知事や佐野市長を表敬訪問しました。また、道の駅でグッズや牛乳を配布し消費者に酪農の理解を深めてもらう良い機会となりました。名古屋で開催された全国酪農青年女性酪農発表大会や関東甲信越酪農青年女性会議秋季研修会では他県の酪友との交流も深める事が出来ました。そして12月5日にエピナル那須で開催された全体研修会は、北海道広尾町より榎木田佳さんをお迎えして「私らしく楽しむ酪農」と題し情熱溢れるご講演を頂きました。昼食会でのじゃんけん大会も盛り上がり、有意義な時間を過ごす事が出来ました。

これからの酪農経営を取り巻く環境は厳しいと思えますが、持続可能な経営をめざして安全安心な食料供給に貢献できるように、私達も女性ならではの知恵や経験を活かして邁進してまいります。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

東西南北

那須高原支所

子供たちに届け！

酪農家とパパの想い

11月20日、那須町立田代友愛小学校にて那須町の伊藤高行牧場協力のもと、1・2年生を対象に搾乳体験を実施しました。

田代友愛小学校では去年から搾乳体験が実施されるようになりました。高行さんの娘さんが同小学校に通っていることが縁となり、牛乳の普及活動と地域の酪農家が協力しあえる場を設けようと企画されたことがきっかけでした。

搾乳体験のほかに、バター作り体験、ホルスタイン子牛3頭とのふれあい体験、トラクターの見学体験が行われました。児童がどの体験も笑顔で楽しんでいたり、バター作り体験で先生が児童以上に一生懸命取り組んでいたことがとても印象的でした。

今回の体験を通じ子供たちに、高行さんの、牛乳を好きになって



青木小3年生

ほしいという想いと、牛乳ですくすく育ててほしいという想いが届けられたのではないのでしょうか。

ご多忙の中、ご対応頂いた伊藤牧場及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

青木小学校搾乳体験

〜どきどき〜はじめの乳しぼり〜

11月21日に那須塩原市青木の小針勤牧場にて、青年部黒磯支部主催で那須塩原市立青木小学校3年生を対象とした搾乳体験が行われました。

はじめに小針さんの説明を聞きながら牧場内の見学をし、沢山の牛さんたちと対面してもらいました。普段自分たちが飲んでる牛乳がどのように作られているかを

目の当たりにし、興味津々に質問を繰り返していました。見学後は青年部員が見本となり、手搾りでの搾乳体験を行いました。児童たちは緊張した面持ちで牛に触れ、自分の手によって搾り出てくる生乳とその温かさに驚きと感動を覚えているようでした。搾乳体験後のバター作りでは、美味しいバターを作るため生徒たちが互いに協力しながら一生懸命カップを振っている姿がとても素敵でした。最後に温めた牛乳を一杯飲み、みんなで記念撮影を行いました。

青年部黒磯支部では地元小学生を対象とした搾乳体験を長年行っています。このような活動は、その土地の酪農を守るための地域コミュニティづくりとしてとても大切な活動です。子供たちが酪農と食の大切さを学び、かつ、酪農を好きになってくれる良い機会となりました。

宇都宮支所

女性会那須南支部研修会

女性会那須南支部（興野礼子支部長）では、12月1日、2日と宮

城県仙台方面への研修会を実施しました。天候にも恵まれ紅葉も随所に見られました。最初に訪れた瑞鳳殿は、



仙台藩祖伊達政宗の霊廟です。ガイドさんが、丁寧に立ち止まりながらお話を下さり少しの時間でしたが「歴史」になった気分でした。また、伊達家の家紋は8種類もあり菊紋・霧紋など戦国時代のその時々で権力者との交流がみとれる等も説明してくださいました。

次に向かったのは、宿近くにある「秋保工芸の里」でこけしの絵付けをしました。最初は紙に顔を書く練習です。上手く書ける様になったらこけしの顔に書いてゆきます。談笑しながら顔が書き終わると店の御主



人に磨いて頂き唯一無二の素敵な
こけしになりました。2日目は、
仙台駅周辺の散策等で帰路に着き
ました。
参加された皆さんの交流と日頃
の疲れが取れる有意義な研修会と
なりました。

女性会芳賀支部研修会

女性会芳賀支部（小林峰子支部
長）では、12月12日東京自由劇場
でモンゴメリー生誕150周年、劇
団四季「赤毛のアン」の鑑賞をし
ました。「人が人を思いやる温かさ、
何気ない人生の中にあるかけがえ
のない輝き、じんわり包み込むよ
うな感動」と四季が謡っている様
にこの作品の奥深さ、登場人物の心
情などの演出、感動的なアンの成
長などとても楽しめるストーリー
でした。自
由劇場を
後に、スカ
イツリーが
見える浅草
ビューホテ
ルにて夕食
を食べて帰
りました。



朝からバス車内では会話が途切れ
ることなく、仕事を忘れリフレッ
シュ出来た一日となりました。これ
からも、支部会員同士の親睦等活
動を行っていく予定です。

料理コンテスト

11月30日に那須塩原市が主催す
る料理コンテスト「栃木県内高等
学校NASUSHIobara Cooking
Contest」が開催されました。昨
年に引き続き2回目の開催とな
り、今年は牛乳を使った料理部門
（みるひい部門）と和牛を使った
お弁当部門（つく弁当部門）の
2部門の募集がありました。栃木
県内から8校11チームが参加し、
高校生たちのアイデアあふれる
作品が出品されました。

審査は、料理研究家や調理学校
の講師などが招かれ行われました
が、どの作品も工夫が凝らされて
いて審査員も順位付けに悩んでい
る様子でした。

栄えある最優秀作品に選ばれた
のは、みるひい部門では「大田原
高等学校」につく弁当部門では「栃
木女子高等学校」となりました。



栃木女子高等学校

大田原高等学校

最優秀作
品は、那須
塩原市内に
ある「アグ
リパル塩
原」、「そす
いの郷直売
センター」
で商品化さ
れる予定で
す。高校生
のアイデアあふれる作品が商品
化された暁には、皆さまも味わっ
てみてはいかがでしょうか。



業務部

●ゲノミック検査事業

令和3年4月よりゲノミック検

査事業が始まり、3年9ヶ月が
経ちました。これまで、30戸1、
594頭が検査を受けています。
ゲノミック検査を実施している
組合員さんより「牛群改良に興味
はあったけど、何から取り組めば
いいか分からなかった。これからは、
数字を見ながら後継牛を自分で選
びます」「何となく体型のいい種
牛を選んでいただけ、これからは、
乳量や繁殖の数値も上げるよう
にしたい」「毎月結果が出るのが
楽しみ」との声が届いています。
ゲノミック評価を活用して牛群
をレベルアップする手順はシンプ
ルです。
①まずは、子牛が生まれたらゲノ
ミック検査を受けましょう。遺
伝的能力が数値化されて、牛群
の長所・短所がみえてきます。
（数値が出ても見方が分からな
いと心配の皆さん、プロがサ
ポートしてくれます。）
②牛群の長所・短所が分かったら、
牧場の改良目標を決めましょ
う。
③目標を達成するには、牧場に合
う後継牛と精液を選び、交配計
画を立てましょう。（これもプ



口がサポートいたします。④計画に沿った授精・移植を行います。①に「戻る」

①④の繰り返しで、牛群の遺伝的能力のレベルアップを目指しましょう。

今まで牛群改良に取り組まれた成果を一部紹介します。乳牛に求める特徴は牧場によって異なりますが、今回は T P I (能力、健康性、繁殖性を加味して算出されるホルスタイン米国総合指数)の組合 T O P 10の数値を紹介いたします。

TPI TOP10 (酪農とちぎ)					
TOP 1.	3,231	TOP 6.	3,001		
TOP 2.	3,040	TOP 7.	3,000		
TOP 2.	3,040	TOP 8.	2,999		
TOP 4.	3,038	TOP 9.	2,997		
TOP 5.	3,037	TOP 10.	2,992		
日本の平均		2,340 (令和6年12月11日時点)			

「思い立ったが吉日」行動することで明るい将来が見えてきます。今年、ゲノミック検査で変革の年にしましょう。

●酪農ヘルパー

職業紹介リーフレット作成

全国的に酪農ヘルパーの不足が課題となっている中で、酪農ヘルパーという仕事の認知度向上のため、当組合ヘルパーがリーフレット作成のモデルとして協力しました。

宇都宮市の駒場牧場にて撮影中の様子がコチラ。



リーフレットが完成したのちは、全国のヘルパー利用組合で採用活動のツールとして利用されます。

●酪農経営ゼミナール

11月28日、栃木県酪農協会主催

の「令和6年度第2回栃木県酪農経営ゼミナール」が N O S A I 塩谷支所において開催されました。栃木県内の酪農家と各酪農協職員が参加しました。

第一部の酪農家向けセミナーでは、「経営改善で実現するこれからの農業経営」をテーマに、ファームサイド株式会社代表取締役佐川友彦氏を講師に迎え座学とグループディスカッションを通じた講演がなされました。

講演は、

- ①経営改善事例紹介
- ②経営改善ポイント解説
- ③これからの農業経営について
- ④各自のワーク・ライフ・バランスについて阻害要因の分析と対策を考える個人ワーク
- ⑤グループディスカッション

以上の5項目で行われました。講演では、佐川氏が阿部梨園で取り組んだ大小500件の経営改善の経験をもとに、一番初めに掃除や書類整理などのすぐできる改善から実行し、小さな改善を継続して行うことで、前向きな変化を実感することができ、経営改善が進んでいくとお話がありました。

個人ワークをもとに行われたグループディスカッションもとても盛り上がりました。特に、従業員やヘルパーとの情報共有の方法や、経営方針に対する家族と従業員の考え方の違いなどが話題となりました。参加者からは、家族経営の抱える経営改善への課題について積極的な質疑応答があり、大変有意義な講演となりました。

第二部の酪農協職員向けセミナーでは、「農家の右腕心得」をテーマに講演がなされました。右腕心得として「親身になる」「当事者になる」「良き伴走者になる」などを挙げ、相手になりきって真剣に考えることが大切だとお話されました。また、現場での課題解決の仕方について「答えは現場にある」と語り、現場をよく観察してできる改善から実行することで課題が見えてくるとお話をされました。



生乳受託課

令和6年11月度の組合生乳生産量は、20,405t（前年比102.3%）となりました。

各支所の受入乳量は、那須高原支所14,658t（前年比103.6%）、宇都宮支所5,748t（同99.3%）、となり、出荷者数は前年同月より20戸減の292戸（内、学校1）となりました。

11月度の組合平均乳質は、脂肪率3.95%（前年差▲0.05%）、無脂固形分率8.90%（同±0.00%）、体細胞数は21.52万（同+2.17万）の成績となりました。

関東生乳販連の11月の総受託乳量は81,300t（前年比100.1%）となり、5ヶ月ぶりに前年を上回る中、用途別販売数量では、飲用向けが100.8%と前年を上回ったことから、脱粉・バター等向けが95.0%と2ヶ月連続で前年を下回る結果となりました。

全国の生産量は101.0%

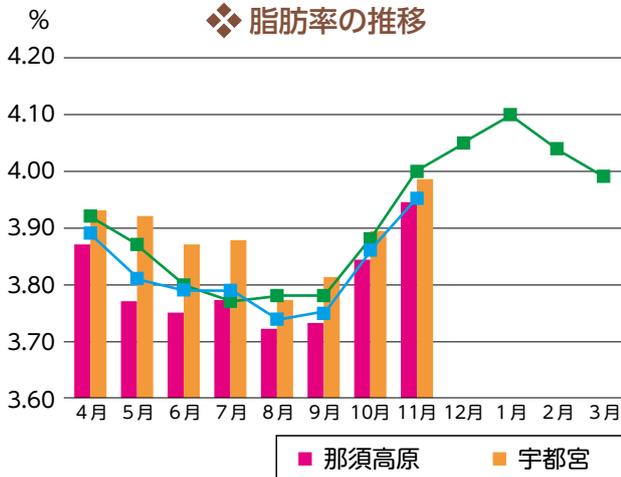
令和6年度 関東生乳販連用途別販売数量

(単位: kg・%)

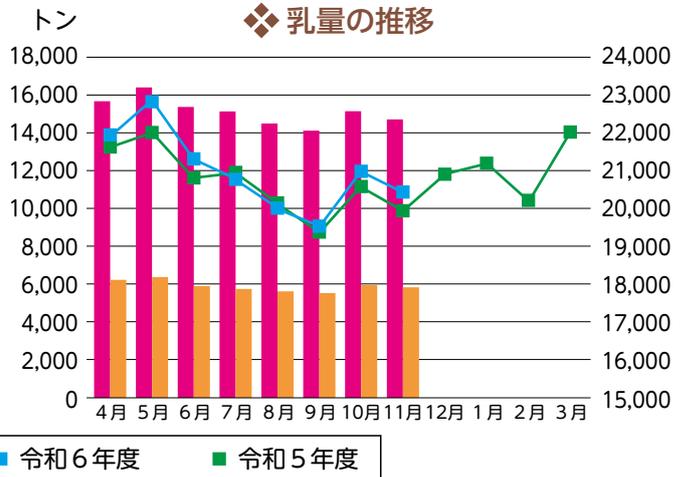
用途	11月期実績	前年同期実績	前年比	11月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	65,204,530	64,656,738	100.8	511,771,098	515,666,125	99.2
(うち学校を除く飲用)	53,728,458	53,127,425	101.1	435,863,955	439,101,729	99.3
(うち学校向け)	11,476,072	11,529,313	99.5	75,907,143	76,564,396	99.1
はっ酵乳向け	11,208,013	11,434,054	98.0	93,310,848	93,810,260	99.5
脱粉・バター等向け	3,762,938	3,961,225	95.0	55,426,715	52,445,922	105.7
生クリーム等向け	986,804	1,010,295	97.7	8,005,009	8,047,461	99.5
チーズ向け	138,035	120,132	114.9	1,063,820	944,998	112.6
総受託乳量	81,300,320	81,182,444	100.1	669,577,490	670,914,766	99.8
脱粉・バター等向け比率	4.63	4.88	-	8.28	7.82	-

と3ヶ月連続で前年を上回りました。内訳は北海道が前年比102.3%、都府県が99.3%の前年比となっています。
 なお、令和6年11月度の生産量・乳質、及び関東生乳販連の用途別販売数量は別表の通りです。

◆ 脂肪率の推移



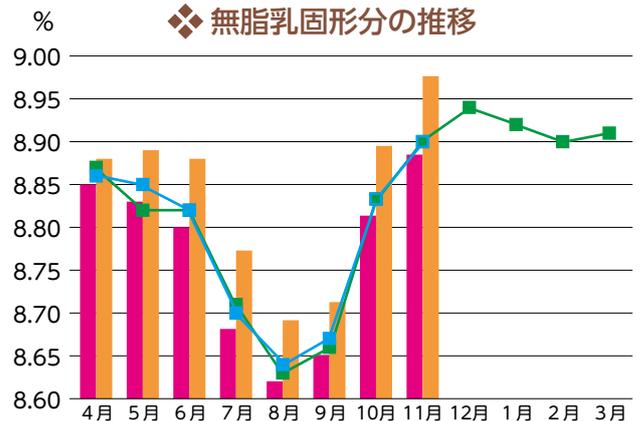
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分の推移



理事会だより

8月度理事会（8月30日）

報告事項

- 1 業務経過報告について
- 2 組合資金貸付について
- 3 組合プール乳価について
- 4 生乳生産管理チェックシート
記帳・記録状況について
- 5 関東生乳販連情報について

協議事項

- 1 7月度事業実績について
- 2 固定資産の取得について

9月度理事会（9月30日）

報告事項

- 1 業務経過報告について
- 2 組合資金貸付について
- 3 組合プール乳価について
- 4 関東生乳販連情報について

協議事項

- 1 8月度事業実績について
- 2 令和6年度事業運営に関する
理事会附議事項の一部変更に
ついて（追認）

10月度理事会（10月31日）

報告事項

- 1 業務経過報告について
- 2 組合プール乳価について
- 3 特別管理未収金の報告について
- 4 子会社の上半期事業実績につ
いて
- 5 関東生乳販連情報について

協議事項

- 1 9月度及び上半期事業実績に
ついて

11月度理事会（11月28日）

報告事項

- 1 組合員の加入について
- 2 業務経過報告について
- 3 組合資金貸付について
- 4 組合プール乳価について
- 5 関東生乳販連情報について

協議事項

- 1 10月度事業実績について
- 2 令和6年度事業運営に関する
今後の対応について

12月度理事会（12月27日）

報告事項

- 1 組合員の加入について
- 2 業務経過報告について
- 3 組合資金貸付について
- 4 年末手当の支給について
- 5 役員定数等検討協議会報告書
について
- 6 組合プール乳価について
- 7 生乳生産管理チェックシート
記帳・記録状況について
- 8 関東生乳販連情報について
- 9 東京電力原発事故農産物損害
賠償について

協議事項

- 1 11月度事業実績について
- 2 役員並びに役員推薦委員の区
域及び定数の改正について
- 3 旅費・実費弁償規程の改正に
ついて
- 4 固定資産の取得について

- 3 職員給与規程の一部改正につ
いて
- 4 固定資産の取得について（追認）

- 3 旧那須高原支所の土地売買の
対応について
- 4 第24回酪農まつりについて
- 5 固定資産の取得について
- 6 年末手当の支給について
- 7 組合と理事との契約につい

11月度 ホクレン初妊牛市場成績（単位：千円（税込））

市場名	開催日	ホル系 初妊牛				(E T初妊牛)		
		出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	出場頭数	成立頭数	平均価格
根室	11月7日	323	300	92.9%	451	62	61	556
十勝	11月11日	531	506	95.3%	476	89	85	606
稚内	11月22日	332	328	98.8%	464	13	12	484
北見	11月25日	328	318	97.0%	480	17	17	520
十勝	11月26日	503	498	99.0%	547	63	61	652
釧路	11月27日	352	348	98.9%	518	27	26	616
根室	11月28日	319	299	93.7%	527	56	55	613
合計		2,688	2,597	96.6%	495	327	317	578
前月		2,454	2,094	85.3%	416	288	266	561
前年同月		3,232	2,812	87.0%	442	579	466	532

今後の初妊牛動向としましては、3月～4月分娩が中心となります。10月までは取引率が低調（10月85.3%）に推移し、初妊牛相場も弱含みで推移していましたが、11月の市場では取引率が大きく回復し、それに伴い平均価格も約80千円上昇しました。春産み分娩牛の出場シーズンとなり、道内外どちらも需要が高まるシーズンとなりますので、価格は今後強含みで推移していくものと思われます。導入を希望される方は、早めのご注文をよろしく願いたします。

11月度 県内家畜市場成績（単位：円（税込））

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
那須(11/30)	F1雄	191	190	68	192,500	110	103,036
	F1雌	140	138	65	145,200	3,300	81,775
	ホルス雄	116	115	69	50,600	110	19,718

今回の初生牛相場は前回（11/25）の平均価格と比較しますと、F1雄は約2千円安、F1雌は約4千円安と若干の弱含みで推移しています。F1雄に絞って前月10月との価格比較を行いますと、約20千円高となっています。先月比較では若干値上がりとなっていますが、過去のピークから比較すると以前として厳しい相場環境が続いており、例年冬から春先にかけて価格は下落傾向をとることが多く、今後も引き続き注視して価格を見守る必要があると思われます。





(写真左)

第28回 ロイヤル・ウィンターフェア視察と カナダ酪農視察研修に参加して

業務部指導企画課 若林 枝美

11月5日～10日にカナダのトロントへ渡航し、第28回ロイヤル・ウィンターフェア視察とカナダ酪農視察研修に参加させていただきました。

5年ぶりの開催となったこの視察研修には、令和4年から令和6年に全国酪農発表会で発表をした方の中から8名を含む、総勢16名が参加しての研修となりました。

【2つの牧場】

1つ目は、「Summit Station Dairy」(サミットステーションデーリィ・旧サミットホルム) (写真①)

を視察しました。77年前に15頭から始まった酪農は、現在1000頭となり、内搾乳牛は半分の500頭。16頭ダブルのミルクパーラー (写真②) で1日3回搾乳し、共同で持っている35tタンクローリー (写真③) で集乳。牛床は、主に砂を使用しており、週1回新しい砂を補充しています。砂を使用する理由としては、乳房炎などの感染症を減らすため、健康が保たれるからとのことでした。また、育成牛は、平均13～14カ月で授精、15カ月以上にならないようにしています。分娩は群ごとにし、群内全頭の分娩が終わったら別の牛舎に移動します。これにより、死産が減ったと説明を受けました。



写真①

2つ目は、「Bosdale Farm」(ボズデール牧場) を視察しました。66年前から酪農を開始し、現在は590頭飼育しており、その内エクセレント90頭 (写真④)、ベリーグッド110頭、グッドプラス30頭がいます。3台の搾乳ロボットがあり、平均搾乳回数は2.8回程度に調整しているとのこと。牛の飼料として、茎が長いアルファルファを使用し、消化に時間を掛けることにより、肺の周りの骨を刺激し、胸郭を柔軟に動かせるようにしていると説明を受けました。(写真⑤ Bosdale Farm 自慢の牛たち)



写真⑤



写真②



写真③



写真④



【ロイヤル・ウィンターフェア】

ロイヤル・ウィンターフェアは、エキシビション・プレイスという建物の中で開催されていました。会場内はとても広いので、一度全員で会場内を一周し、おおよその場所を把握した上で、各自見学をしました。早速、ホルスタイン共進会場へ移動し、3歳の部（表紙写真）を見学しました。約30頭出場しており、その中から6頭が上位（写真⑥）に選ばれました。係留場では様々な種類の牛を見学しました。他にも馬やラマ、ウサギや山羊など様々な動物がいました。また、羊の共進会、豚の授乳、ドッグショーなども見学することができました。

その後、再びホルスタイン共進会場でグランドチャンピオン牛決定の瞬間を見学しました。各部の上位の牛が会場内に現れ、徐々に客席が暗くなり出場牛に照明が当たりスモークがたかれる中、上位3頭（写真⑦）が決まり、大きな歓声を浴びていました。その後、盛大に表彰式が行われました。

11月9日、帰りのエアカナダでトロントのピアソン空港から羽田空港へ、約13時間飛行しました。おわりに、この度は海外で貴重な経験をさせていただき、心から感謝しております。これからもこの経験を生かし、業務に取り組んでまいりたいと思います。



写真⑥



写真⑦

お知らせ



《新入職員紹介》

新規採用者（8月1日付）

経済部生乳受託課

秋澤 智子

この度、8月

1日付で正職員

となりました

経済部生乳受託課

の秋澤智子と申します。

主に乳代精算業務を担当しています。平成30年2月から派遣社員として3年、その後臨時職員として3年半働かせていただき現在に至っております。

組合で働くようになってから、酪農家さんの大変さや素晴らしさを知り、牛乳や乳製品がますます大好きになりました。今では最後の一滴まで感謝を込めて大切に飲んでいきます。また、生乳生産量全国第2位の本県で酪農に携わる仕事が出来た事に誇りに思います。

このご縁を大切に、これからも組合員の皆様のお役に立てるよう精一杯頑張りますので、ご指導の

ほど宜しくお願い致します。

新規採用者（8月1日付）

那須高原CS

平山未来也

8月から那須

高原クラーブ

テーシヨンに配

属になりました

平山未来也と申します。私は、臨時職員として令和4年4月に入組しました。

始めは慣れない仕事に戸惑いながらも酪農という仕事の魅力に惹かれていき、もっといろいろな知識を身に付けたいと思うようになり諸先輩方などに自分の疑問や現場での仕事など様々なお話を聞かせていただき、これまで畑の違う仕事をしてきた私にとって、とても充実した日々を送らせていただきました。

これから職員として今私が携わっているCS業務以外にも組合員の皆様と関わる機会が多くなっていくとは思いますが、未熟ながらも皆様のお役にたてるように成長していきたいと思っています



でご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

新規採用者（8月19日付）

那須高原CS 結束 浩和



8月から那須高原クーラーズ テーシヨンに配属になりました

結束浩和と申します。

出身は茨城県桜川市です。那須地域の自然環境に憧れ、今年の4月に那須塩原市へ移住をしました。前職は消防士をしていましたが、移住をきっかけに地域の産業に貢献したい気持ちがあり、代表的な産業である酪農に関わる仕事を選びました。未経験の職種の為、右も左も分からずご迷惑おかけすることも多々あるかと思いますが、少しでも早く仕事を覚え組合員の皆様のお役に立てる人材になれる様努力いたします。

新規採用者（10月1日付）

那須高原CS 渡邊 貴之



令和6年10月1日より那須高原クーラーズ テーシヨンに採用になりました、渡邊貴之と申します。

これまで

製造業、倉庫・運輸業等の仕事を経験してきて酪農業に関してはまったくの未経験ですが、今迄の社会人経験を活かして新たな事に挑戦してみたいと考え、酪農とちぎ農業協同組合にお世話になることになりました。酪農及びクーラーズステーションでの知識はまだまだ浅いですが、皆様からのご指導を受け、スキルアップを図っていきたく思います。逸早く一人前になり、微力ながら組合員のお役に立てる様、精進していきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願致します。

新規採用者（10月1日付）

那須高原支所 業務推進課 齊藤 元生



10月より那須高原支所に配属となりました、齊藤元生と申します。出身は仙台市で、前職で動物用医薬品販売会社に勤めていました。実家はサラリーマン家庭で自身も農業系の学校を出ておらず、酪農の知識が深いわけではありませんが、いち早く知識の習得に努めたいです。

厳しい情勢の中ではありますが、酪農家さんが気持ちよく仕事を進められるようにサポートして参りたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



《職員人事》

退職者（7月31日付） 那須高原CS（臨時） 小倉 一人

退職者（8月31日付） ふれあい牧場（臨時） 井澤 彩乃

退職者（12月20日付） 那須高原CS（臨時） 月井 愛唯

新規採用者（8月19日付） 那須高原CS 結束 浩和

新規採用者（9月17日付） ふれあい牧場（臨時） 佐竹 靖大

新規採用者（10月1日付） 那須高原CS 渡邊 貴之

那須高原支所 業務推進課 齊藤 元生

経済部生乳受託課（臨時） 佐伯 奈央

職員配置（1月1日付）

別添「酪農とちぎ機構図」のとおり

